

看護学における ケアリングの現在

1993 (平成 5) 年、本誌にて「看護におけるケアリングの概念」という焦点が組まれて、はや 18 年が過ぎます。その間にケアリングは、看護の本質として位置づけられてきました。1993 年当時は、「ケア」と「ケアリング」は同義に使用されていましたが、現在は「ケアリング」として独立しています。

ケアリングが重要視されるようになったのは、哲学者の Mayeroff の『On Caring (ケアの本質)』(1971 年)が出版されてからです。看護学の学会には、1980 年頃から登場するようになりました。「相手の自己実現への援助だけでなく、援助者もまた援助することによって自己実現する」というケアリングが、ベトナム戦争、湾岸戦争で疲弊した米国医療スタッフの救いとなりました。

ケアリングに関する書籍や、研究、測定用具、講演は着実に増加し続けていますが、ケアリングが看護の本質であるとされながらも、定義が多様なまま、歳月が経過しました。ケアリングはさまざまに定義され、関心、気遣いなどの精神的な関わりとして考えられることも多いのですが、Mayeroff をはじめとする多くのケアリング理論家は、ケアリングが決して関心や気遣いだけではないことを強調しています。Mayeroff はケアする人の能力を強調していますし、Benner, Watson, Montgomery, Gaut らも、看護師の知識・技術が重要であると述べています。

本焦点を企画するにあたり、さまざまな書籍や研究などを通して、新たにケアリングが患者-看護師、学生-教師といった関係性だけでなく、文化、組織など環境への広がりをもちはじめたことが明らかになりました。米国では 1990 年代後半から、特に Watson の定義を用いた研究が進められました。Watson

は米国、北欧、オセアニアでの研究を通して、ケアリングがクライアントの生活に与える影響を強調しています。また、ケアリングを量的に測定することが可能かという疑問を残しながらも、21の測定用具が開発されてきました。

日本でも1990(平成2)年以降、徐々にケアリングへの関心が高まり、ケアリングの三大理論家であるWatson, Leininger, Bennerの来日によって、ケアリングへの理解が深まり、看護系大学の理念にケアリングが掲げられるようになりました。ケアリングは日本の看護師国家試験出題基準にも組み込まれ、ケアリングをテーマにした講演が看護学会、病院看護部で取り上げられることも多くなり、日本における看護の重要な概念として位置づけられてきています。

本年2011(平成23)年6月18～19日にはWatsonが来日し、国際ケアリング学会が広島県広島市で開催されます。Watsonのケアリング理論は多くの研究で引用されるだけでなく、新たなケアリング環境を創造する意味でも活用されています。本焦点は「看護学におけるケアリングの現在」と題して、ケアリングの概説と展望、ケアリングの研究動向、Watsonのヒューマン・ケアリング理論、ケアリングの測定用具、ケアリングの教育という内容で構成されています。また、本誌44巻7号(2011年11-12月号)では、上述した国際ケアリング学会をテーマとする焦点が予定されていますので、併せてお読みいただければと思います。

企画：筒井真優美(日本赤十字看護大学教授)